目　　次

巻頭言 …… 第16回東海北陸作業療法学会長
寺田　佳世（県リハビリテーションセンター）

研究論文

１　北陸３県の回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の専門的役割に関する研究
－作業療法士への質問紙調査から－　第２報
…… 石川県済生会金沢病院　丁子　雄希・他　1

２．当院回復期リハビリテーション病棟における脳血管疾患患者の入院時能力が，
アウトカム評価実績指数に与える影響
…… 医療法人社団浅ノ川　浅ノ川総合病院　太田　哲生・他　9

３．大学生におけるRey聴覚的言語学習検査の測定値と記憶方略
…… 独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院　板倉　沙織・他　14

４．片麻痺患者における上肢懸垂用肩関節装具Omo Neurexaが立位および歩行能力に
与える影響
…… 医療法人社団浅ノ川　浅ノ川総合病院　太田　哲生・他　20

実践報告

１．手背部の挫滅損傷後に屈筋腱の癒着によるDIP関節の屈曲制限を呈した症例
－屈筋腱癒着の病態と腱剥離術後のハンドセラピィ－
…… 金沢医科大学病院　入江　啓輔・他　25

２．老健から在宅生活再開への段階的取り組みの中で作業療法士が担う役割
～活動の調整と「家に帰って良かった」という思いを実感できる工夫～
…… 能美市介護老人保健施設はまなすの丘　明福真理子・他　29

３．長座位が困難な頸髄損傷者の起居，移乗動作自立に向けた，両下肢着用式の
自助具作成の試み
…… 社会医療法人財団董仙会　恵寿総合病院　五十嵐満哉・他　33

４．役割を獲得したことで退院後に通所介護利用への拒否が見られなくなった一事例
－認知症高齢者の絵カード評価表（APCD）を用いて－
…… 社会医療法人財団董仙会　恵寿総合病院　生田　隆倫・他　39

５．キーパーソンが不在である脳損傷者への自動車運転再開支援
…… 社会医療法人財団董仙会　恵寿総合病院　北谷　　渉・他　43

６．主体的に取り組めた料理という作業を通して新たな地域交流ができた上腕骨頚部骨折の一例
…… 医療法人社団　和楽仁　芳珠記念病院　　河崎　憲昭・他　47

７．下垂足が原因で転倒を繰り返していた事例の安全な屋外歩行獲得を目指して
…… 医療法人社団　和楽仁　芳珠記念病院　　寺内　伽恵・他　51

投稿規定 …… 55

執筆要領 …… 56

巻 頭 言

第16回東海北陸作業療法学会を終えて

第16回東海北陸作業療法学会長
寺田　佳世（県リハビリテーションセンター）

平成28年11月26～27日の二日間にわたり石川県地場産業振興センターで開催した第16回東海北陸作業療法学会ならびに日本作業療法士協会設立50周年記念事業を無事終えることができた。今学会では、作業療法士及び作業療法を目指す学生770名、一般来場者350名と多数の方々に参加頂き、盛大に開催することができた。

今学会では学会最大の144演題が集まり、多くの作業療法士が日頃の臨床成果を発表する機会となった。また、日本作業療法士協会設立50周年を記念し、大会特別企画として開催した「日本海最大級の福祉機器展」に61社の出展企業の協力を得ることができ、移動支援、車椅子、排泄・入浴、日常生活用具、座位保持・床ずれ防止、福祉車両、ロボット・医療設備と様々な用具に触れる機会になった。そのほか、本県の発祥で30年間継承してきた風船バレーボール大会を石川県レジェンドチームの方々と東海北陸６県士会の協力により、各県のチーム対抗戦を一般公開のかたちで開催することができた。振り返ると、日本作業療法士協会50周年という機会に、当県で学会開催ができたことをとても良かったと思っている。

今回の学会は学会開催に向けて、実行委員をはじめ会場企画運営委員、参加受付委員、接待委員、企業展示委員、ホームページ編集委員、演題採択編集委員、学会誌編集委員、レセプション委員と多くの準備委員で役割分担を行い、また当日は運営委員300名を超える県士会員の協力のもと、「手作り学会」を会員とつくりあげることができたと思っている。当日まで「〇〇の準備は大丈夫か？〇〇の確認は？」「あれはどこの委員がしているのか？横の連携は大丈夫か？」各委員長は気を揉むことも多くあったのではないかと思う。予算があればこのような学会運営を企業に委託する方法は勿論楽なのだが、一方で多くの会員と汗を流し運営することで、顔のみえる身近な関係づくりや、企画力や遂行機能力の向上、社会勉強につながる機会になったのではないかとも思う。

石川県で今まで開催した日本作業療法学会２回、東海北陸学会３回を経験する自分にとって、それぞれの学会準備に、苦労も多いが楽しい思い出も多く残っている。これからの若い県士会員には様々な県士会の企画や運営に参加し、色々な社会勉強をして欲しいと思う。それが自分の知識の向上につながり、人間関係が豊かになることは間違いない。そして、それらの経験の一つ一つが、今学会のテーマでもある「人の暮らし、生きることを創造し実践する作業療法」を実践するための力にもなっていくと思っている。

編集後記

2016年11月26日，27日に第16回東海北陸作業療法学会が石川県主催で開催されました．寺田学会長の下，OT・一般の方を含め1000人を超える参加があり，盛大に終わりました．福祉機器展への一般参加者も多く，印象に残ったのは「テレビを見て来た」と昼のニュースを見られた方が来場されたり問い合わせがあったりと，一般の方にも関心が高いことが実感できました．また運営委員として関わることができたのも非常によい経験となりました．

さて今年も無事に本刊の発行に至りました．査読や編集にご協力頂いた皆様には心より感謝申し上げます．東海北陸学会から短い期間での締め切りとなったため投稿は少ないと思われましたが，多くの投稿があり，会員の普段からの研鑽が分かりうれしく思っております．また東海北陸での発表に関しては，次号以降でも是非論文にしていただきたいと思っております．多くのご投稿をお待ちしております．

学術部担当理事　麦井　直樹
河野　光伸
学術誌編集委員長　堀江　翔
編集委員　出雲　健志
西　悦子
小林亜里沙
高林　亮
寺嶋　翔子
仁木　裕也
岡本　聡美
越田　雄
宮腰　真
向田　明奈
南　知江
山本　紗季
板倉　沙織
米田美登里
柳内百合香
菊池　ゆひ
高間　達也

石川県作業療法学術雑誌（第25巻　１号）（通巻25号）
2017年３月23日発行
編　集　公益社団法人　石川県作業療法士会
発行所　公益社団法人　石川県作業療法士会
印　刷　ヨシダ印刷株式会社